

ランチョンセミナー： カクタス・コミュニケーションズ株式会社

開催日時・会場 9月15日(水曜日) 12:20-13:20 WEB-ONLY

国際研究広報の意義と必要性 -海外事例を元に-

日本の研究機関は、新たな知見を得ると多くの場合に研究成果を発信しています。では、海外発信までできている機関はどのくらいあるのでしょうか。そこまで手が回っていないが故に、国外での認知度向上や国際共同研究の機会を失っている研究機関が多いように見受けられます。

当セッションでは、国際研究広報の意義と必要性について前後半に分けて会場の皆様と一緒に理解を深めたいと考えています。

前半では国際研究広報の意義と効果について非英語圏（韓国・中国）、英語圏（インド他）の事例を元に考察します。日本にも導入できる方法論なのか、その国だからこそ成功したのかなど多角度から事例を分析し、その知見をどのように日本の研究機関における国際研究広報に活かしていけるのか、会場の皆様と一緒に考察したいと考えております。

後半では研究広報が必須となった海外の事例についてご紹介します。イギリスのREF（Research Excellence Framework）においては社会的インパクトが大学評価に組み込まれたため、研究機関は積極的に研究広報をせざるをえない状況に置かれました。日本においても共同研究の数や外部資金調達力が研究者や機関そのものの評価指標になってきつつあります。この動向が今後加速されるのか、会場の皆様からのご指摘を交えつつ共に考察できればと思います。

双方向での議論を目指し質疑応答時間を長く設定しております。積極的に疑問やご意見を共有してくださる方のご参加をお待ちしております。

オーガナイザー

長塚 香織:カクタス・コミュニケーションズ株式会社・
Impact Science・アカウントマネージャー

NO
PHOTO
AVAILABLE

海外向けオンライン・プロモーションのプロジェクト・マネージメント、アカウント・マネージメント歴約6年。大学を主なクライアントとした国際広報業務では多国籍のプロダクションチームと、日本の大学の広報コンテンツに係る調整業務を行う。近年は海外の学生に向けた大学プロモーション動画のプロジェクトを多く担当。

オーガナイザー ※つづき

森田 桂花:カクタス・コミュニケーションズ株式会社・
Impact Science・マネージャー、サービスデベロップメント



開発援助業界（国連世界食糧計画他）で勤務していたが、スリランカでスマトラ沖地震津波被災者を救援中に熱帯性感染症に感染し、危篤となり帰国。大学に転職し学術支援専門職員・常勤講師などを経験した後、カクタス・コミュニケーションズ株式会社に入社。大学・研究所の国際研究広報を代行するImpact Scienceというサービスを担当しており、開発援助業界以前に勤務していた制作会社から通算で20年以上広報に携わる。

司会者

竹村祥成:カクタス・コミュニケーションズ株式会社・
Impact Science・シニアアカウントマネージャー



5年以上に渡り、研究広報業務のプロジェクト管理に携わる。カクタスの国際広報事業では事業立ち上げ時からアカウント・マネージャーを担当。主に日本の大学の広報担当者や研究者と、海外のサイエンスライターの間口となり、研究論文を元に内容を詰めながら、海外メディア向けのプレスリリースや研究紹介動画プロジェクトの進行管理を行う。